



草玉づくり

第9回テーマ： 六甲山で草玉を作ろう

講演内容

山野草を楽しむ

- ①山野草の栽培と増殖
- ②絶滅危惧種の増殖へのチャレンジ
- ③山野草の栽培環境づくり

草玉づくり

- ①草玉の作り方説明
- ②実習

実施日：平成15年12月13日（土）
午後1時～3時40分

場 所：六甲山YMCA



講師：伊東 吉夫さん

プロフィール

昭和21年生まれ
千葉県出身、三田市在住
ノバルティスファーマ株式会社勤務 薬剤師
NPO法人人と自然の会理事
三田山草会会長

クリスマスモードの六甲山YMCA

セミナー前日の12日、六甲山で初雪がありました。去年に比べ1ヶ月程遅い冠雪とのことです。

六甲山YMCA本館2階の里見ホールを初めて利用しました。ホールには暖炉があり、素朴さと由緒を感じさせます。クリスマスの飾りつけもされていました。昼食懇親から暖炉に火を入れて、和やかな雰囲気盛り上げました。



昼食懇親の準備

大人気の草玉づくりを体験

草玉は山野草等を、苔を張った玉に植え込んだもので、インテリア小物の感覚で現在人気を呼んでいます。参加者は男性6名、女性22名と圧倒的に女性が多く、年末にもかかわらず大勢集まり、草玉づくりへの関心の強さがうかがえました。

講師は三田山草会会長の伊東吉夫さん。セミナー前日までに伊東さんと中川貴美子さんが材料を準備してくれました。正月の飾り等、各自思いを込めて一心不乱に草玉作りにチャレンジ。1人2つの草玉を心弾ませ持ち帰りました。

六甲山ならではの創作活動

六甲山での創作活動を今回初めて試みました。六甲山は国立公園なので植物を採取できないため、今回山野草を持ち込み準備して創作活動に取り組みました。

帰りのバスまでの待ち時間、暖炉を囲みながら歓談をしました。4時を過ぎて外に出ると、今年2回目の雪がちらほらと降り出しました。帰りは雪に見送られ、風情ある六甲山の冬を楽しみながらの下山となりました。

街中での趣味の活動と比べて、六甲山という自然環境の中での創作活動は、別世界のように感じました。今後は六甲山での創作活動をもっと取り上げていきたいと思っています。生涯学習としての市民セミナーをもっと幅広いものに工夫していけると確信できました。



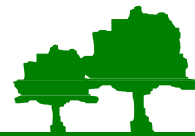
草玉作りに無我夢中

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

後援：兵庫県神戸県民局 兵庫県立人と自然の博物館
灘区役所



テーマ:六甲山で草玉を作ろう



第9回市民セミナーの流れ

市民セミナー

1. 昼食懇親 : 12:00~13:00
2. 挨拶案内 : 13:00~13:15
3. 講演 : 13:15~14:40
4. 実習 : 14:50~15:30
5. 後片付け : 15:30~15:40

講演

山野草を楽しむ(スライド解説)

作業準備

実習

草玉づくり

後片付け

※いろいろな種類の山野草や伊東さんの活動の様子をポイントで紹介していただきました。

講演のあいさつ(伊東 吉夫さん)

今日は山野草を楽しむというテーマで、自分の活動や山野草の基礎知識なども盛り込んで広く浅く紹介します。その後実習に入りたいと思います。



山野草をこよなく愛する伊東さん

講演内容

山野草とは

山野草とは、深山、溪谷、湿原、里山、田の畦、池辺、海岸の砂丘などに自生し、自然のままの姿で野趣に富み、季節の移り変わり自然の風情を身近に感じられる野草をいう。

絶滅から守る -カザグルマの増殖など-

カザグルマはキンポウゲ科の多年生つる草。兵庫県希少生物リスト「レッドデータブック」のAランクで、ニュータウン開発等で減少している。

伊東さんは、絶滅から守るため、挿し木や取り木により増殖をして、自生地に戻す活動をされている。



カザグルマの花

その他、山野草についての基礎知識を詳しく紹介いただいた。(用土、肥料の与え方、水やり、病害虫、病気への対策など)

お待ちかねの実習へ

さあ、草玉作りがスタート。草玉の材料は伊東さんをはじめ、中川貴美子さんにご準備いただいた。材料のコケ、植え込み材料のシダ、ヤブコウジなどを採取してくれた。また、ケト土も作りやすいようにと伊東さんは練って下さった。



山野草を選ぶ

材料が揃って作り方の説明を受けた後、全員待ってましたとばかりに山野草に飛びつき、捕り合いになった。山野草のバーゲン会場みたいだとみんなで大笑い!



3世代で体験 佐田さん

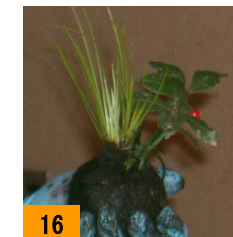


全員で後片付け

草玉の作り方

基本となる草玉の作り方をマスターしましょう。草玉が大きくなりすぎないようにすることがポイント。成長後の姿を想像しながら作ります。

1. ケト土を練る
2. 植え込む草木を準備する
 - ・黒ポットを外す
 - ・古い土を落とす
 - ・枯れ葉は取り除く
 - ・根を洗う
 - ・古い土は全て取り除く
3. 平らな板を用意する
4. 中心の植物を決める
 - ・手前の植物を決める
 - ・後方の植物を決める
5. ケト土を貼る
6. 新芽を折らないよう注意する
7. 根をまとめる
8. 草玉を整形していく
9. 底にもケト土を貼る
10. コケを貼る大きさに切る
11. コケの余分な土を落とす
12. コケを貼る
13. 竹ぐしで押さえる
14. 水を与える
15. もう一度竹ぐしで押さえる
16. 完成



完成後は1~2週間明るい日陰で管理し、草玉の形がくずれないように霧吹きで水を与えます。

※ケト土とは湿地に生えるアシやヨシなどの植物が堆積して分解しかかった黒色の土

草玉作りの感想

参加者の方に感想を寄せていただきました。

～近藤佳里さん～

伊東さんの山野草に対する想いがとても感じられるお話で、内容はもとよりその温かい人柄が素敵でした。草玉は今ブームなので興味があり作ってみたかった。実際に作ってみると、泥遊びのような感じもあり、日本の伝統文化の世界もありで、自分の中の大人と子供両方の感性が満たされました。



楽しかった！
山内さん、近藤さん

～あけびグループの石田澄子さん～

スライドでの説明に、花屋の花に見慣れている私の眼には山野草の花の可憐さは新鮮で且つ清々しく写り、自生地での保護や増殖の現況を知ることが出来たのも収穫でした。講演後の草玉作りは指導のお陰で無事完成し、無用と化していた水盤に石を添えて並べ迎春飾りに出来ればと、その成長を楽しみに育てていきたいと思っています。



作品を自慢する あけびグループ

～あけびグループの藤本武子さん～

山野草という素朴な材料にひかれ参加させていただきました。自然にあんなにきれいな花が咲くとは偉大ですね。講師に二等辺三角形を形作る、材料を入れすぎない等、コツを教えていただきましたが、さわる程に思いと違う形になってしまったようです。伊東さんに習い、持ち帰った草玉に愛情を注いで育てていきたいと思っています。

作品と一緒に記念撮影



鳥井さんご夫婦



三上さん、岩井さん、中川さん



先月から続けて参加
泉さん



霜田さん、重野さん、小野さん

講演を終えて ～伊東さん～

全員一生懸命に草玉作りにチャレンジされ、私語を交わす人もなく熱心に作品を作っている姿には感動すら覚えました。

完成後のアフターケアを十分にされて、半年後には青々としたコケが見られることを祈るばかりです。季節的には初夏～梅雨時が植物の成長が活発に行われ、色々の山野草が挿し木出来るシーズンのためベストです。初冬のクサダマづくりも植える材料によってはクリスマスや正月の飾りとしての「ミニ盆栽づくり」としては良いのではないかと思います。大変楽しいひと時を、多くの方と一期一会でお会いでき有難うございました。

六甲山での創作活動は新たな魅力

今回初めての創作活動でしたが、皆さんが嬉しそうに草玉を持ち帰る様子を見て、楽しいひとときを提供できたと実感しています。六甲山という自然環境での創作活動は大変魅力的です。今後この草玉作りを定番化したり、また新たな創作活動をセミナーに盛り込んでみたいと思いました。

◆配布・参考資料：

- ・草玉の作り方資料一式
- ・参考資料（イソギクや野ぎくの石付き）

◆実習材料：

ケト土、コケ、山野草（マンリョウ、リュウノヒゲ、黄金ゼキショウ、ヤブコウジ、ダイヤモンドソウ等）

連絡先：三田山草会 伊東 吉夫
〒669-1546
三田市弥生が丘2-24-10
TEL/FAX：079-562-6956
E-Mail：itohke@d1.dion.ne.jp

◆アンケートより

・暖炉のある部屋でリラックスできた・暖炉の火の守り役のおじさん（那波昌彦さん）に感謝！・毎回趣向を凝らしたテーマでとても楽しい・ざっくばらんな雰囲気

◆参加者：29名（順不同・敬称略）

伊東 吉夫	中川 貴美子	田中 弘子	川口 嬉代子
石田 澄子	中務 勝子	藤本 武子	山口 紀子
黒田 郁子	那波 満子	宮本 和子	霜田 泰功
鳥井 正義	鳥井 満喜子	三上加津子	岩井 百合子
重野 遊佐子	佐田 利巳	佐田 イヨノ	佐田 俊美
佐田 麻葉	佐田 瑞季	泉 美代子	近藤 佳里
山内 郁子	堂馬 英二	小野 律子	那波 昌彦
菖蒲 美枝			